

パネルディスカッション



国立大学法人 鹿児島大学 理事 研究担当
住吉 文夫 氏



(株)studio-L 代表 コミュニティデザイナー
山崎 亮 氏
薩摩川内市生涯学習推進本部 副本部長
(薩摩川内市女性50人委員会代表)
橋渡 よし江 氏
中越パルプ工業(株) 川内工場 施設動力部 部長
富田 実 氏
薩摩川内市新エネルギー対策監
向野 陽一郎 氏

【住吉】

それでは、ご紹介を兼ねまして、山崎さんのお話を聞かれて思われたこと、ご意見などお1人ずつお聞かせください。

【富田】

中越パルプの富田です。よろしくお願いいたします。自己紹介からさせていただきます。出身は出水市です。1984年に入社しました。今年で30周年目を迎え、記念すべき年に、このような場を提供いただき、まずはお礼を申

上げます。

会社に入りまして、ずっとエネルギー畑を歩んできております。30年間、工場のエネルギーの効率化、省エネに携わって参りました。

今日は、山崎さんの講演をお聞きして、今からは人のつながりが大切だと思いました。今までは会社のことだけ、会社のエネルギーのことだけ考えていましたが、今後は今日の講演を参考にさせていただきながら、薩摩川内市に育てられてきた会社ですので、皆様とのつながりを大事に

して恩返しをしていく、エネルギーをみなさんと共有していくということも視野に入れながら検討していきたいと思

【住吉】

はい、ありがとうございました。それでは、橋渡さんよろしくお願いたします。

【橋渡】

“今日もまた、女性はわたし、ただ1人”ですが、頑張りたいと思います。

昨年もこのようなエネルギーのシンポジウムがあったのですが、私は全然知りませんでした。自分は全然興味がなかったし、自分に関係があるとも思えませんでした。山崎さんの著書に『コミュニティデザインの時代』がありますが、その中に、熱い行政職員というお話が出てきます。薩摩川内市役所に新エネルギー対策課がありますが、その中に、熱い方がいらっやまして、これまでに3回ほど勉強会をさせていただきました。

私は、今日は女性として、妻として、母として、主婦として、自治会として、市民として皆様とともにお話をし、学んでいきたいと思

出身は長野県です。純心女子大学ができた時に、夫がそこで務めることになり、20年前にやって来ました。今日はよろしくお願いたします。

【住吉】

はい、ありがとうございました。次に向野さんお願いします。

【向野】

今日は、こんなにたくさんの皆さんにお越しいただきまして、本当にありがとうございます。行政代表で参りましたが、非常に寂しい思いをしました。1年経ってみて、少しずつですが、つながってきているのかなという気がしています。

私たちは、2年前に市役所の企画政策部に立ち上がった若い課です。あっち行き、こっち行きしながら、いろんな事にぶつかり、押したり引いたりしながら、とにかく、多くの方とつながり、皆と一緒にやっていきたい、地域を盛り上げたいという思いで仕事をしてきました。

今日は山崎さんお話の中に、仲間づくりのヒントをたくさん得たような気がします。

行政は一方的なアプローチに終始する感じがありますが、少し見方を変えてみると、従来の出口であった所を入口として捉えてみる。あるいは、入口と出口の間に本当の入口があるかもしれません。このように物の見方を変えてみる柔軟さが大事だと感じ、また、行政は主体になったり、脇役になったりと、まるでカメレオンのような存在であるべきだな思いました。この時に皆さんと、私どもをつなぐキーワードは、“次世代エネルギー”だと再認識しました。

私は福岡県出身の九州人でございます。どうぞよろしくお願いたします。

【住吉】

はい、ありがとうございました。

山崎さんのお話の中で、「はあ〜、なるほど、すごいですね」の3つの言葉に感激しました。私はこれまで、学生に上から目線で、30数年間講義してきましたが、同じ目線で接しないといけないと反省しております。今日のお話は結局そういうことだったのかなと思

今、皆様方に一通りお話していただきました。

薩摩川内市は、エネルギーというキーワードでまちづくりを進めていますが、エネルギーを皆で作って、皆で使うことにつきまして、山崎さんからもう少しお話いただけますか。



パネルディスカッション

【山崎】

今日、私がお話しさせていただいたことは、個人個人の人が使うエネルギーをどうやって作っていくかを念頭に置いております。企業やプラントに必要な地域のエネルギーに対しては別の視点が必要です。エネルギー消費量を考えた時に、個人が生活で使うエネルギーは大きな比率を占めていますので、ここの部分を変えていくというお話です。

エネルギーのために自分たちで動くのではなくて、別の目的でつながり、楽しいことをしながら、エネルギーの使い方や作り方をちょっと変えていこうという方向性があるのではないかと思います。

エネルギーのために集まると1つの“テーマ型コミュニティ”になってしまう。エネルギー大好き人間たちが集まるコミュニティになるわけです。これでは広がっていかない。先ほどデパートの例でお話ししましたように、デパートと関係のない人にデパートに関わるきっかけを作る。同じように、違う分野で活動している人たちにエネルギーに関わってもらうきっかけを作っていくことが、まちづくりにおけるエネルギー政策の1つではないかと思います。

【住吉】

はい、ありがとうございます。

【橋渡】

先ほど、3回ほど勉強会をさせていただきましたと申し上げましたが、勉強する中で、今回のエネルギーについてすごく考えることがありました。

エネルギーは、私たちの目的ではないと思います。私たちは、生活の中で考えることがたくさんあります。環境、健康、食品、年金、保険、税金などたくさんありますが、エネルギーもその中の1つだと思います。

例えば、健康のことは、昔は、普通に生活していればよかったですけれども、生活習慣病が叫ばれるようになり、私たちは健康に対する意識が向上したわけです。

エネルギー・電気のことを考えると、私たちは電気を当たり前に使っていますが、ちょっと立ち止まって考えてみると、今ではエネルギー・電気がないと死んでしまう人たちもいます。IT も電気がないと使えません。実は、私た

ちの生活はものすごくエネルギーに依存しているわけです。エネルギーに依存している以上は、どのようにエネルギーを守り、エネルギーを大切にしながら生きていくかを私たちは学ぶべきだと思います。それは、自分の健康を守るのと同じくらい、自分たちの生活の中できちんと大切にしていってほしいと思います。

今回の勉強会で、私は得した気持ちです。エネルギーについて学び、話し合ったりすることは、薩摩川内市だけではなくて、皆に必要なことだと思います。

【住吉】

今、橋渡さんがおっしゃったように、私も大学の講義で地球温暖化やエネルギーの話をするとなかなか縁遠い話になります。また、いろんな場でエネルギーを話題にしても、やはり人とつながらない状況があります。

こういったところを変えていくのが本日のテーマになっておりますが、向野さんどうでしょうか。

【向野】

薩摩川内市の取り組みをご紹介させていただきます。今年の3月に薩摩川内市が策定いたしました「次世代エネルギービジョン」というものがあります。まちが抱えているような課題をエネルギーというキーワードから解決していこうというエネルギー面での処方箋を提示する内容のものです。10年後、20年後こんなまちになって欲しいというありたい姿を盛り込んだ市の未来像です。

具体的な案件をまとめたものとして行動計画を作っております。未来像を提示し、そこに着地するための具体的な取り組みを取りまとめました。

私たちが目指していることは、対等なパートナーシップです。私たちは仲間づくりをしたいのです。これまで、行政がいろんな施策を行う際、自分たちの思いで行ってきたところがあります。求められていることと提供するものとのミスマッチがあったかもしれません。従いまして、いろんな事業を行っていく時には、立場を超えて、事業者さん、市民の皆さん、教育機関の皆さんなどと手に手を取り合い、皆と一緒に、まちづくりをしたいと思っています。

私たちが行きたいのはまちづくりです。キーワードはエネルギーです。エネルギーを作ったり、使ったりしながらま

ちづくりを進めるということです。この場合、皆さんがしっかりとつながっていくことが大事です。

今まで、私たちが行ってきたことは、皆さんとしっかり向き合い、車座になって、お話しをさせていただくというものでした。新エネルギー対策課は、出来て2年程になりますが、2年程の間にいろんな施策を知っていただく、仲間になっていただくことを目的に、昼夜問わず、なるべく出向いて行くことをしてきました。

薩摩川内市には48の地区コミュニティ協議会があります。地区コミュニティ協議会や青年会議所、高校、大学などに行き車座になって皆と意見交換をしてきました。取り組み始めて2年程になりますが、延べ90回程の意見交換をさせていただき、約2,000名の方とお会いし、意見交換をさせていただきました。しかしながら、まだしっかりと仲間づくりができていないのではないかと思います。市民のみなさんに求められていることをきちんと行っていないのではないかと感じています。

では、私たちはどういう風に行ったら良いのかと言いますと、皆さんからお伺いしたことを聞いたままにしないことが大事だと思います。何らかの形でしっかり返していく。きちんとコミュニケーションを取っていくことが必要だと思います。仲間づくりをするにあたっては、皆さんに参加していただけるような環境づくりやきめ細かな普及啓発を進めていく必要があると思います。

例えば、今年度の事業ですが、川内駅の東口に“スマートハウス”を作ります。皆さんに集まっていただき、実際にエネルギーの作り方や使い方を体験していただきながら、

いろんなアイデアをいただきたいと思っております。また、いろんなきめ細かなメニューづくりをしないとイケないわけですが、圧倒的に欠けているのが若い人の参加です。若い人を誘う方法はいろいろありますが、その1つに“お笑い”があると思います。来年2月に生涯学習フェスティバルを行います。その時に、吉本興業の芸人さんに来ていただき、笑いながらエネルギーの勉強をしていただきます。

また、今年の3月にエフエムさつませんだいが開局しました。地域にあつという間に根付いたツールですが、コミュニティエフエムを活用しない手はないと思います。今日のシンポジウムの宣伝も何度となく行って参りました。

さらに『もっともっと地球となかよく。エネルギーとなかよく。』というブックレットを作成しました。これは児童、生徒に向けたエネルギーのことをもっと知ってもらい、その上で、エネルギーのまちの市民として、自分たちのまちの将来を考えて欲しいという願いを込めて作成したものです。

要するにきめ細かな環境整備とか様々なメニューを提示し、仲間づくりをしていきたいというのが私たちの思いです。小学校へ出前講座に行った際、このブックレットはたいへん好評でした。このブックレットの中に、“知る」「考える」「話す」そして、なかよくなるう。”と書いてあります。つまり、いろんなことを皆さんに考えていただくきっかけを、1つでも多く私どもが作っていききたいと思っているわけです。

山崎さんのお話と私どもの話をどういう風に融合していくのかをしっかりと考えていきたいと思っております。



パネルディスカッション

【住吉】

はい、ありがとうございます。山崎さんは何か思うところがありますか。

【山崎】

可愛いですね。良いブックレットですよ。あと、2,000人以上の人と会ったというのも凄いことですね。

1人対2,000人の関係ではなくて、その2,000人の人たち同士が具体的なプロジェクトを楽しむ段階まで来ると行動が生まれてくるような気がします。

お笑いを通じた“笑エネ”、もありましたが、何か楽しい、笑える、もう1回行ってみたいというような気持ちが大事だと思います。そこに行ったら美味しいものが食べられる。好きな人に会えるとか、こういったことは些末のように見えて、実は根源的な大事なことです。

エネルギーのことを考えると、地球との関係になり生真面目な感じがしますが、いかに人間の本能と上手く引っ付けながらプロジェクトを進めていくかが大事だと感じました。

【住吉】

富田さんの中越パルプ工業では、地元企業の地域貢献として木質バイオマスの発電を準備されているそうですが、その辺りのお話をお聞かせください。



【富田】

東北の震災の後に、電力、特に原子力政策が見直され、電力が逼迫している状況の中で、原子力に頼らないシステムづくりということで、国が固定価格買取取り制度、つま



り、再生可能なエネルギーを使ったFIT制度(※)を利用して、再生可能なエネルギーによる発電を広めようという政策が出されました。

そこで、当社は太陽光発電と木質バイオマス発電による売電事業に参入することにしました。太陽光発電は、今年8月に九州電力さんの火力発電所の近くの47,000㎡ほどの遊休地にメガソーラーを設置しました。発電量は1,500kW、年間で1,900,000kWhの発電が可能です。これは一般住宅の350戸分になります。ただ、この太陽光発電というのは、設置したらそれで終わりです。つながりという面ではあまり期待ができないわけです。もう1つの木質バイオマス発電ですが、当社は紙を作っていますので、昔から木材の調達は得意な分野ですが、最近、IT化が進み紙の需要が減ってきました。南九州一円のチップ業者さんも、林業がこのままでは衰退してしまうとのことから、チップ業者の後押しもあり、木質バイオマス発電に取り組むことになりました。現在、既に設置工事に入っております。

木質バイオマスによる発電量は23,700kWとメガソーラーより大きく、年間の発電量は、154,000,000kWhです。一般家庭における月の電力の使用量は平均450kWhですので、約28,500戸分の電力を供給できる設備になっています。

燃料の種類としては、未利用材、間伐材を使用します。23,700kWの電力を発電するために必要な原料は1日

850tです。1日に850tの木材チップが必要なわけです。この850tがどれ程かと申し上げますと、1日に25mプールの5杯分ほどの燃料を使うことになります。木質バイオマス発電はメガソーラーと異なり設置して終わりではないです。

薩摩川内市青山の方に「中パの森」という所があります。そこで、私どもは里山の整備を進めています。里山というのは人の住む近くにある森を言いますが、昔は、薪を使い米を炊き、風呂を沸かすなど、それなりに人手がかかったわけですが、エネルギーが薪から電気や油に代わってきますと、非常に森が荒れてきました。間伐材がそのまま放置されるという状況になりました。間伐材が放置されると、そこからメタンガスなどの地球温暖化ガスが発生し、地球温暖化を促進してしまう。そこで、放置されている木材を有効利用することによって循環が生まれます。

木質燃料を燃やすと灰が発生しますが、木材の純粋な灰ですので、それを山に返し循環させる。1つの連鎖が生まれてくると思っています。そういったこともあり、木質バイオマス発電は、我が社が潤うだけでなく、林業、運送業者なども潤います。地域の活性化と言う意味では非常に重要な事業ではないかと自負しております。

【住吉】

はい、ありがとうございました。

木質バイオマスというのは単に山林を守るだけではなく、林業、運送業者のためにもなる地域に貢献できる発電方法です。とても素晴らしいことだと思います。ぜひ成功させていただきたいと期待しております。

ここからの時間は、「行政と市民との間の対等なパートナーシップをどうやって築くか」、「いろんな立場の方が、どういう役割をすべきなのか」について話し合いたと思います。

事業者、行政、市民、教育機関などいろんな立場の方がいらっしゃいます。

どなたかご意見がある方はいらっしゃいますか。それでは、向野さんお願いします。

【向野】

山崎さんのお話に沿った格好で、エネルギーの方からのアプローチをさせていただきます。先程、山崎さんが大事なことをおっしゃっていました。「こうしたいと言う本能に訴えることはすごく大事」だと。苦しいこと、きついこと、悲しいことはなるべくならやりたくない。私どもが考えていくにあたっては、楽しいとか、笑えるとか、可愛いとか、面白いとかと言ったポジティブな本能に訴えていくことが大事だと思います。

山崎さんのお話の中で、地域にあるもの、ありものを上手に使って料理していく、そして、市民の皆さんに楽しみ、笑ってもらう、そういったことから入っていければいいのかなと思います。

エネルギーのまち、薩摩川内市にはいろんな施設があります。火力・原子力といった発電所、大規模のメガソーラー、現在、建設中の風力発電所、バイオマス発電、また、九州電力さんのスマートグリッドと呼ばれる賢い電力の使い方を学べる体験施設など、そういったものが町の中にたくさんできているわけです。私どもはそれをしっかりPRしていく、また、ただ単体で切り売りするのではなく、パビリオンとして迎え入れる。例えば川内駅は、このパビリオンの入口なわけです。そこを起点にいろんなパビリオンに行ってもらって、体験しながらエネルギーについて学ぶ。また、途中でまちのことを学ぶ。いろんな方と参加していただき、友達になっていただく、そして、このまちの将来を見据えて、何ができるのかとさせていただく。このようになればいいのかなと考えております。



パネルディスカッション

【住吉】

はい、ありがとうございました。

山崎さんのお話の中にも、薩摩川内市のセールポイントは何なのかと探すと、最初のきっかけを作ることは大事だと言うのがありましたが、薩摩川内市というのは、歴史的に長いエネルギーのまちとしての歴史、市民の皆さんが、エネルギーのまちであるという自負を持っているところだと思います。

橋渡さんは、自分たちの住むまちは、よそと比べて、エネルギーを使ったまちづくりと言う観点では、一歩も二歩も歴史的に先を走っている。そのような感覚はありますか。

【橋渡】

あると思います。防災なども他のまちよりは進んでいると思います。山崎さんのお話をお伺いいたしまして、私が思ったことは、山崎さんはいろんなことを面白がっているなと感じました。

薩摩川内市で10月にハロウィーンイベントがありました。これは数年前に英語教室を行っている方が、面白いことしようと言って始めたものですが、今では“テーマ型コミュニティ”になってきていると思います。面白がっていると無理なく続けられると感じています。

“地縁型コミュニティ”のお話がありましたが、よそから薩摩川内市に来て思うのは、鹿児島、川内はものすごく災害が多いです。川内川の氾濫や台風、長野県は台風で学校が休みになることはないです。このような時、親戚も誰一人いない、もし何かあった時、頼りになるのは、やっぱり近所の人だなと思うのですが、こういった時につながり



が全くないのは怖いことだと常日頃思っています。そこで、“地縁コミュニティ”を少しでも強くできないかと思っていますので、最近ではグランドゴルフに挑戦しています。

災害が隣り合わせですから、備えというものを考えたら、私は、特に鹿児島はこのことについて声をいくら大きくしても大きくしすぎることはないと思っています。ですので、私は、“地縁コミュニティ”を大事にしたい。

生涯学習についても勉強させていただいております。生涯学習とは、皆で楽しく何かをしよう、学ぼうと言うものですが、薩摩川内市では、なかなかそれを自由にできる空気や仕組みがないです。始めようと思っても、しにくい、始めにくいというのを感じております。各コミュニティ、自治会、市のレベル 例えば、「十人集まったら講座を開きますよ」では、ハードルが高いと思います。私は5人でいいかと思っています。5人くらいの小さなコミュニティがたくさんできてきて、その中で、少しずつエネルギーの勉強をしてみる、自然な形で組み込んでいくのがいいのかなと思います。

先ほど申し上げましたが、エネルギーは目的でも目標でもありません。私たちの生活の大切な1部ですので、その大切な1部を大切にしていくために、皆で学んでいける、考えていける場をどうやって作っていくのか。その仕組みづくりについて考えることが、一番の近道ではないかと思ったり、広がりが生まれるのではないかと思います。

【住吉】

はい、ありがとうございました。エネルギーは私たちの1部というのはなかなかいい言葉です。山崎さんはどう思いますか。

【山崎】

橋渡さんは勉強熱心な人ですね。こういった方が地域に何人かいると、学びのコミュニティが出来上がるのだなと思います。

橋渡さんが、おっしゃっていることはまさにその通りです。何か一緒にやろうと言った時に、誰に相談したらいいのか、どんな仕組みがあるのか、すぐに分かることが、何かやり始める時には重要なことです。また、その仕組みを行政の人が作ってくれたらいいと思うのではなく、自分



たちで話し合っ決めていければ、こんなに面白いことはないと思います。

事業者、行政、市民・NPO、教育機関が対等な立場で仲間になっていくという仕組みをどう作っていくのかを考えることも、集まって何かしたいねと思う時に、それはどういう仕組みが支えてくれるのだろうかと考えることと同じだと思います。

私は、事業者、行政、市民・NPO、教育機関の立場だった経験がありますので、私の経験から意見させていただきますと、市民やNPOの方から声を上げるというのが、最適な方法ではないかと思います。声さえあれば、乗っかり

たいという人たちが結構いるのではないかと思います。市民やNPOの方から一緒につながって活動を興し、「私たちは楽しんでいますよ」と言うことを、極力いろんなところで発言していくと、他の分野との新しい結びつきが生まれる気がします。

市民やNPOの方が、楽しいと思えること、これが大事だと思えること、自ら発案したことを皆で、ワークショップ形式で意見交換し、発表する場ができてくるといいのかなと思います。

最初にお話ししましたが、1人のひとが2,000人と会うことも大した仕事ですが、2,000人の人がお互いにつながっていくような機会や場を作ることができれば、誰かが発案した際に、賛同しやすい状態が生まれてくるのではないかと思います。

【住吉】

はい、ありがとうございました。

少し動き出したら、動き始めると思うのですが、最初を誰がどこからスタートするか。そのきっかけづくりが非常に難しい気がします。

何も無いところに芽を作って膨らましていく、その仕掛けのヒントはないですか？



パネルディスカッション

【山崎】

とある動画があります。芝生広場の上で1人の人が踊っているところから始まる映像です。屋外音楽フェスタの会場で、ステージの休憩時間になっても、1人で踊り続けている人がいました。するとその踊っている人の横に、面白がって2人目が一緒になって踊り始めました。これをフォロワーシップと言いますが、次第に3人目、4人目と増え、次第に踊りの輪が広がっていきます。最後には皆が踊り始めました。すると逆に、休憩や寝そべっている人が異常に見えてきます。こういった光景をたまたまビデオカメラで納めていた人がいてそれを公開しました。

このお話のポイントは、最初の1人目は当然大事ですが、それに賛同する2人目もものすごく大事だということです。2人目は、最初に言い出した人と同じくらいか、またはそれ以上に重要な役割を果たします。

従いまして、最初に行う人は、必ずフォローしてくれる人がいると信じて発言し、声を上げることがすごく大事です。だれか声を上げたのなら、「いいね。やろう!」と乗っかってあげることが大事です。その活動が楽しそうだなと思えたら、次第に仲間が増えていきます。

最初に声を上げることは確かに勇気がいることですが、自分が楽しいことを仲間と一緒にやりたいと思ったら声を上げること、声が上がったなら支えてあげること。この2つはとっても大切なことだと思います。



【住吉】

はい、ありがとうございました。

この会場に300人程いらっしゃいますが、この中の1%

でも声を上げると、多くの活動が生まれ、そのフォロワーになっていただくとさらに広がっていくわけです。そう考えると、そう難しいことではないなと思います。気軽な気持ちになりますね。

富田さん何かご発言はありますか。



【富田】

先程、向野さんの方から薩摩川内市をパビリオン化し、木質バイオマス発電所を見学コースに入れるお話がありましたが、薩摩川内市を通していただければ、準備など行い対応していきたいと思えます。

「中バの森」のお話をさせていただきましたが、ここでは、社有林に手を加え里山を蘇らせると言う目的で、市や県、ボランティアの方にも協力していただき整備してきました。昨年の3月に開所し、十人以上での見学申し込みの看板を立てたのですが、十人以上の申し込みが少ないという状況です。人が集う場所という意味では、非常に良い場所ですので、ぜひ利用していただければ企業としても貢献できるのではないかと思いますのでよろしく願いいたします。

【住吉】

はい、ありがとうございました。

【向野】

せっかくの機会ですので、もう少しお話しさせてください。自分自身の反省として、何となく片意地張り過ぎてきた気がします。山崎さんのお話を聞いているとすごく楽になります。つまり、難しい仕掛けとか仕組みがなくても、実は、人は集える訳です。仲間づくりは、お金も労力もかから

ないということが、分かったという意味では、今日はすごく自分の気持ちが楽になりました。

山崎さんにお声かけしたのも、自分が抱えている問題をどうやって解決していくのか、皆さんにも聞いていただきたいという気持ちもありました。皆様からお話をいただき、ヒントを得ることができました。

今日の狙いは「コミュニティを作っていくこととエネルギーを作っていくことの接点はどこなのか」ということでしたが、その接点の作り方は、案外に片意地張らなくてもできるのだと分かっただけでも大変大きなメッセージであったかなと思いました。



【住吉】

エネルギーの話になってくると、やはり難しい話になってきます。地球温暖化の話にもなってくるともっと遠い話になります。先程、橋渡さんが言われたように、エネルギーは我々の生活の1部なので、コミュニティの中では、自然とエネルギーの話題が上がってくる。そういったコミュニティの広がりが、まちづくりにつながっていくような気がします。

【橋渡】

私が昼間にお店に出かけると、最近よく目にするのが素敵な男性です。どう見ても退職された方です。何をされてこられたのかなと思います。知恵も経験もたくさんありそうな人が、目の前にいるわけです。私は、これはものすごい社会の宝の持ち腐れではないかと思うのです。

仕事をバリバリされてこられてきた方は、自分の地域には知り合いや友達は少ないかもしれません。しかし、自分



の中には、何かしたいと思う気持ちが絶対あるはずですが、ただ、迷っているだけかもしれません。

そこで、ここにいる皆さんは、自分の周りに、そういった方がいらっしゃったら、ちょっと会話をし、上手に乗せてあげることが大切です。長い経験をしてこられた人たちです。薩摩川内市にもそういった方がたくさんいらっしゃいますので、そういった人の宝を大事にしてみたらどうでしょうか。

【住吉】

ありがとうございました。

最後にまとめになりますが、誰かが面白そうなことを見つけて手を挙げる。さらに、誰かがそれをフォローしてあげる。薩摩川内市の中にそういったグループが数多くでき、そのグループに仲間が集う。そうすれば、薩摩川内市がますます元気になっていくと思えます。

私の部屋に、「毎日、楽しく」と掲げてあります。今日、帰りましたら、“皆と”を付け加えようと思えます。これからは、「毎日、皆と楽しく」をモットーにしていきたいと私なりに結論づけました。皆さんも今日のお話を聞いて自分なりに結論づけてみてください。

以上で終わります。どうもありがとうございました。

※FIT 制度
エネルギーの買い取り価格を法律で定める方式の助成制度である。地球温暖化への対策やエネルギー源の確保、環境汚染への対応などの一環として、主に再生可能エネルギーの普及拡大と価格低減の目的で用いられる。